

医療法人財団 友朋会 嬉野温泉病院

02 友朋会 今年の目標 04 新病棟オープン! 08 連携室通信:認知症疾患医療センター開設
10 東日本大震災災害支援『福島県子どもの心のケア』に参加して 11 第15回アートセラピー美術館祭・特別講演のお知らせ
12 診療担当医師一覧表/ホームページリニューアル



特集記事:新病棟オープン!

2012年 友朋会 今年の目標

理事長 中川龍治

昨年末の12月26日に新西病棟・新西外来棟が完成し、竹中工務店さんより、お引き渡しいただきました。2月より、その使用を開始いたしますが、いよいよ魂を入れていく1年となります。

今年は、医療と介護のダブルでの診療報酬改定で、医科が0%（診療報酬の引き上げと薬価の引き下げが各々1.38%で±0%）、介護報酬が1.2%（在宅1.0%、施設0.2%）の引き上げとなりました。恐らく、プラス0%（正確にはプラス0.004%なので）とは言え、当会のような長期療養型の医療機関にとっては、マイナス改定と覚悟すべきでしょう。また、新病棟を建築するにあたり、11床の病床削減をしております。そのため、既にベッド調整に入った現在の入院率は96%前後で推移しています。このように経済的には、友朋会にとって、とても厳しい1年になると予想されます。その上で、理念であります「患者さまのために」何ができるのかという友朋会のベースに、2つの項目を目標といたしました。



目標1：『精神科救急・急性期治療の充実と認知症アウトリーチ体制の構築』

目標2：『被災地支援の継続』

さて、『精神科救急・急性期治療の充実と認知症アウトリーチ体制の構築』ですが、新西3、5病棟、新西外来棟には精神科救急・急性期治療・ストレスケア(うつ病、神経症等)を充実させるための設備を整えたつもりです。新しい外来には診察室を11室作り、児童思春期から認知症疾患まで、幅広い診察が可能なスペースを準備しました。また、2011年12月1日に佐賀県から認知症疾患医療センターの指定を受けており、新外来棟にもセンター室を設置し、当初より導入を計画していたMRI検査とともに、認知症初期の方への相談体制と診察・診断・治療体制がハードとして明確なものとなりました。医師、看護師、医療福祉士、作業療法士、心理士、薬剤師、栄養士、介護士など多職種で、退院支援・生活支援・在宅支援を的確に行い、在宅や高齢者施設における認知症患者さんを入院ではなく、訪問型医療・福祉で支えていく「認知症版アウトリーチ」をできるようにならなくてはなりません。しかし、実際には当院を受診し、入院される認知症患者さんは重症の認知症の方がほとんどです。自宅や一般の医療・福祉機関では対応困難で、当院入院までの想像を絶するご家族の介護負担を考えると、「認知症版アウトリーチ」はお役人が考えた「机上の空論、絵に描いた餅」とも言えます。ただ、それが「絵に描いた餅」なのは、我々の施設が最後の砦(精神科病院)だからなのです。最近では、「精神科病院で認知症をみる時代は終わった」という方も多数でてこられました。そうです！この言葉は逆に精神科病院が最後の砦の時代は終わったと教えてくれています。初期の認知症の方にこそ、精神保健福祉法の精神のもとに、患者さんの人権を守り、「共感、受容、支持的対応」ができる精神科の医療・看護・介護能力が絶対的に必要なものだと思えます。器は揃いました。あとは、いかに、実行できるかになります。そのソフト的準備として、当院の精神科医師、認知症治療病棟スタッフ、クリニックスタッフが各々に認知症対応に関する手順作りに努力してきてくれて、ひとつずつ形となっています。厚労省が描く「認知症対応」=「認知症版アウトリーチ」は「絵に描いた餅」ではありますが、それでも、我々はそれを多職種による地域連携を通して「本物の餅」にできなくては、精神科医療として生き残ることができないという覚悟をもって本年に臨みたいと思えます。

次に『被災地支援の継続』ですが、我々が継続して何かができるまでという訳ではありません。義援金の寄付、昨年6月末に宮城県の精神科病院に医師、看護師の派遣、11月に福島県へ「心のケア」での医師の派遣や、私自身も郡山のビッグパレットや仮設住宅の見学もいたしました。しかし、単発的なものに終わっています。未曾有の東日本大震災を我々は忘れてはなりません。津波で一つの町が忽然と消えてしまったというような状況が、瞬時にたくさんの場所で起こったのです。2012年1月1日現在で、死者15,844人、行方不明者3,451人です。そして、世界で唯一の被爆国として、なおかつ現在の福島の皆さんの状況を思えば、原発のことに意見を持たずして、エネルギーを使うべきではないでしょう。「ひとつずつ、何かできることをひとつずつやること」、そして、「決して忘れないこと」が遠くにいてもできることだと思います。

またこの1年、我々友朋会職員一同は、誠意をもって真摯に、研ぎ澄まされた一人一人がひとつとなり、どんな小さなことでもひとつずつ根気強く積み重ね、前を向いて、しっかりと精進していきます。

ごあいさつ

理事長 中川龍治

この度、精神科の西3病棟43床、中央3病棟60床、精神科西外来棟の耐震基準の関係により、国・県から一部補助を受けまして、11床の病床削減の上、新西3・5病棟、新西外来棟を建築いたしました。機能的には、精神科救急・急性期治療、身体合併症治療、外来治療の充実を目的としています。また、今回、新たにMRIを導入するなど、設備面での充実も図っております。2011年12月1日から県より認知症疾患センターの指定を受け、開設いたしましたので、認知症における更なる地域への貢献を徹底したいと思っております。

建築の外観コンセプトは「嬉野」です。昭和40年開設以来の創設理事長・中川保孝が創ってきました友朋会のアメニティの充実を大切にしながらも、私独自に「嬉野」をイメージして表現したつもりです。利用していただく皆様に心安らく治療空間として根付いていきますことを心より願っております。

なお、建築工事に関しましては、建築士の松永様、魚谷様、竹中工務店の皆様方、携わられた工事関係の皆様方、誠にありがとうございました。そして、地域・近隣の皆様方、騒音など多大な迷惑をおかけしたにもかかわらず、ご理解賜りましたことを心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。





◀1階奥にはコミュニティホール。就労移行支援事業所として運営予定の「オリンピック・カフェ・アンド・ギャラリー」があります。



◀エントランスをくぐり、2階総合受付に続く吹抜けのホール。エレベーターも完備しています。



2階は外来部門。総合受付と広々とした待合空間。図書コーナーも設置しています。



診察室内も広く、圧迫感を感じさせません。



外来トイレには、オムツ交換用の台を備え、子供連れの患者さま・ご家族でも安心してご利用いただけます。



今回新たに導入したMRI。より詳細な画像検査が可能です。

2F
精神科外来
認知症疾患医療センター

大量の診療情報を効率よく管理する「診療情報管理室」。入院・外来診療録を一元管理しています。



診察室は全11室。わかりやすく大きな文字で表示しています。待ち時間の目安となるように呼び出しは番号制で、モニターに表示されます。



3階。4階は精神科一般病棟(西3A)・合併症病棟(西3B)と、精神科急性期治療病棟(西5A)・ストレスケア病棟(西5B)です。エレベーターで上がると、広いホールが患者さま、ご家族をお迎えします。



効率よく業務を行うための、広いナースステーション。「患者さまのために」をモットーに、診療、看護を実践しています。



病室はすべて個室または半個室で、洗面、トイレが完備されています。ストレスケア病棟(西5B)では全室にテレビが設置されています。



患者さまとご家族の面会室。プライバシーに配慮し、個室空間を準備しています。





病棟廊下。一部にはくつろぐための共有空間もあり、眺望も楽しめます。



病棟内には畳コーナーもあり、のんびりと過ごすことができます。



夕暮れの病棟外観。

連携室通信：認知症疾患医療センター開設

佐賀県の長寿社会課より指定を受け、平成23年12月1日に認知症疾患医療センターが開設され、平成24年2月に当院の新病棟2階にオープンしました。

今回はセンター開設に際し佐賀県の認知症医療介護連携の体制及び認知症疾患医療センター受診の流れについて図解にて説明したいと思います。

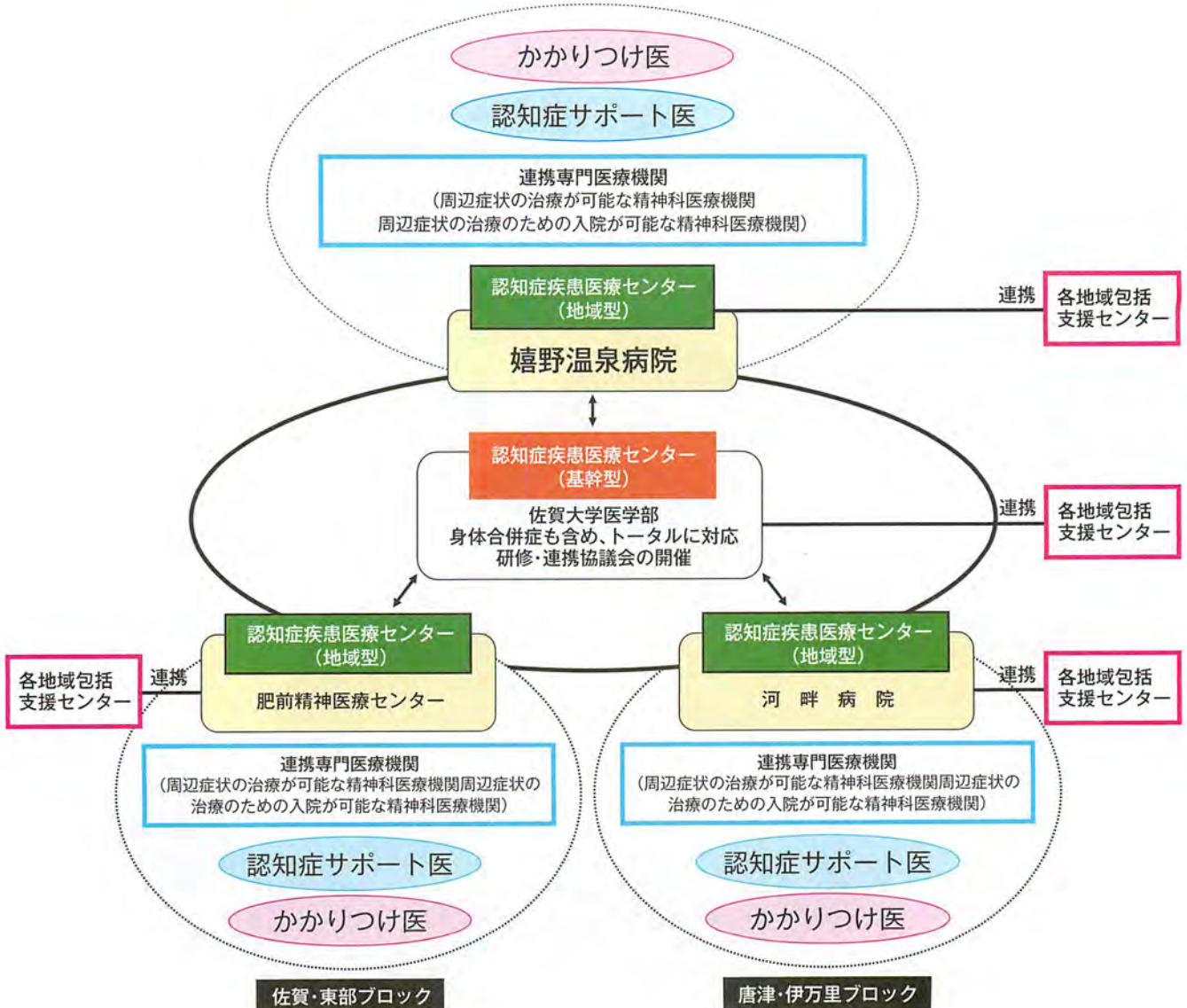
佐賀県版 認知症疾患医療介護連携体制

認知症疾患医療センターの事業内容

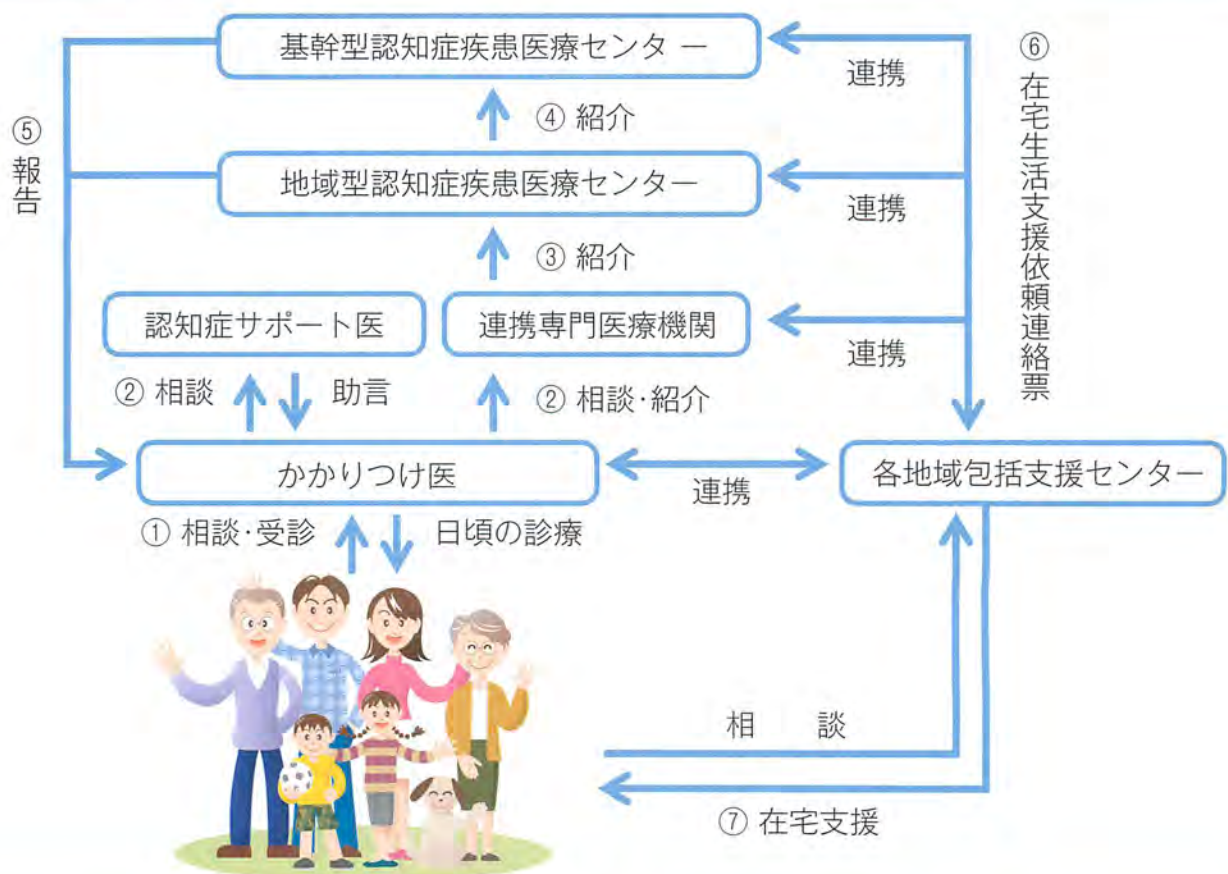
- 空床の確保による救急・急性期対応(基幹型のみ)
- 地域包括支援センターとの連絡・調整
- 専門医療相談(電話、面談、医療機関等紹介)
- かかりつけ医等への研修会
- 鑑別診断とそれに基づく初期対応
- 認知症疾患医療連携協議会
- 合併症・周辺症状への急性期対応

センター数4(基幹型1、地域型3)

杵藤ブロック



認知症疾患医療センター受診の流れ



介護者支援（市町の地域支援事業、認知症コールセンター等）

※これは基本的な流れであり、必ずしもこの流れに限るというものではありません。

【システムの流れ】

- ① 患者がかかりつけ医に相談・受診する。
 - ② かかりつけ医が診断・治療の相談が必要な場合、認知症サポート医に相談し助言を得る。
・かかりつけ医が診断・治療の相談が必要な場合、連携専門医療機関専門医に相談・紹介
 - ③ 連携専門医療機関の判断により紹介が必要な場合、地域型疾患医療センターへ紹介
 - ④ 地域型疾患医療センターの判断により、紹介が必要な場合基幹型疾患医療センターへ紹介
 - ⑤ 疾患医療センターは、紹介目的に応じた診断・治療・ケアなどの方針を決定後、紹介元の医療機関及びかかりつけ医へ報告
 - ⑥ 疾患医療センターは、福祉サービス等必要な場合、本人または家族の同意のうえ、居住地の地域包括支援センターへ情報提供
 - ⑦ 情報提供を受けた地域包括支援センターが、患者の在宅生活を支援する。
(必要に応じ、かかりつけ医や介護支援専門員と連携する。)
- ※診断・治療・ケアなどの方針を決定した医療機関が、紹介元及びかかりつけ医へ報告。また、福祉サービス等必要な場合、本人または家族の同意のうえ、居住地の地域包括支援センターへ紹介
- ③ 疾患医療センターにて治療継続または適当な医療機関へ紹介
(疾患医療センター連携担当者により、適当な医療機関を選定)
 - ④ 福祉サービス等必要な場合、本人または家族の同意のうえ、居住地の地域包括支援センターへ情報提供

お問い合わせ先

友朋会 嬉野温泉病院内 認知症疾患医療センター
(0954)43-0003(直通)
相談受付時間 8:30 ~ 17:00(月~金 祝日除く)

東日本大震災災害支援『福島県子どもの心のケア』に参加して

精神科医 富松眞之

平成23年3月11日、東日本大震災が起こり、多くの方々が命を落としました。そして残された方々も大きな心の傷を負っているものと思われます。私は児童青年精神医学会に所属しており、その縁で震災後の子どもの心のケアを行うということで、災害支援として福島県のいわき市と郡山市に派遣されました。11月14日と15日の2日間ですが、佐賀、福島の往復のため実際は4日間の日程でした。

1日目はいわき市の浜児童相談所の職員と同行し、津波被害のあった豊間地区という沿岸部を訪れました。静かな海水浴場と聞いていましたが、現地に着いて愕然としました。そこは、住宅のコンクリートの基礎部分だけが残った荒涼とした野原があるだけでした。遠方にはまだ撤去されていない壊れた住宅や工場がありました。まだ新しい住宅も多く、そこで生活していたことを考えると本当に言葉が出ませんでした。無人の豊間中学校の校舎には「〇〇大会出場おめでとう」の垂れ幕があり、今でも子どもたちの声が聞こえそうなのですが、運動場は瓦礫の山でした。この瓦礫はある程度の放射線が残存しているため、まだ処理が決まっていないということでした。学校のフェンスは折れ曲がり、津波の恐ろしさが分かります。津波の第1波で難を逃れた方々が様子を見に自宅へ戻ってしまい、第2波で犠牲になったケースが多かったと聞きます。現場は所々、警備員が立っており、空き巣被害を防ぐためだそうです。近くの小名浜港は再開しましたが、この辺は放射線のためまだ漁ができないでいるとのことでした。仮設住宅では原発の10km圏内の地区からの避難者が部落ごとに集まって生活していました。2世帯が一戸の住宅に隣接して、肩寄せあうという意味では良いのですが、プライバシーという点では問題だということです。実際、思春期年代の子と親との口論が虐待と間違われ、通報されることがあったと聞きます。

午後からは児童相談所に一時保護されている女子中学生の面接を担当しました。やや暴力的な父との衝突で家出を繰り返しているケースでした。原発から10km以内で、仮設住宅に避難しており、父親は現在原発で働いているという状況でした。

保育所訪問も行いました。そこでは、子どもたちが3ヶ月間、放射線量を計る目的で全員が首から紐で線量計を提げており、痛々しく感じました。先生方からの相談として、ある親御さんから、保育所が出している乳製品を一切子どもに与えないでほしいと言われ、対応に困ったという話をされました。先生方も「絶対安全」と言えないところに不安があり、先生方自身も親である方も多く『専門家も信じられない』との疑心暗鬼にとらわれているようでした。

郡山市では、あまり報道で伝えられなかった、ダム決壊により被害者を出した藤沼湖の視察に行かせてもらいました。県中央児童相談所では、知的障害の手帳取得の診断業務、発達障害の診断・告知を行いました。発達障害者の親御さんも原発からの避難者で仮設住宅から来られていました。

派遣前の学会研修でハサミ状格差という言葉を知りました。震災で時間とともに復興し生活が戻っていく方と、回復が遅れますますます生活が困窮する方に格差が生まれてきているという状態です。原発被害、放射線の見えない恐怖により、まさに福島県全体に復興の遅れが出てきています。瓦礫もまだいたるところに野ざらしとなっています。私が接した児童相談所の職員さんや保育士さん、タクシーの運転手さんなどから、将来が見えないずっしりと沈鬱な不安を感じました。ケースに関しても、もともとあった家族内の問題やひずみが地震被害・原発被害で本人や家族全体が翻弄され疲弊し、さらに問題の悪化を招いているようでした。

たったの2日間でしたが、本当に福島の方々のやるせない思いを感じ、非常に疲れを覚えました。まだ、今から自分に何ができるのか、あらためて考えさせられました。

最後に、今回の福島派遣へご理解・ご協力いただいた理事長はじめ、精神科医師、外来・病棟看護師、コメディカル、事務部門の方々に厚く御礼申し上げます。



●津波にあった豊間地区
壊れた工場



●津波にあった豊間地区
豊間中学校の運動場は瓦礫の山

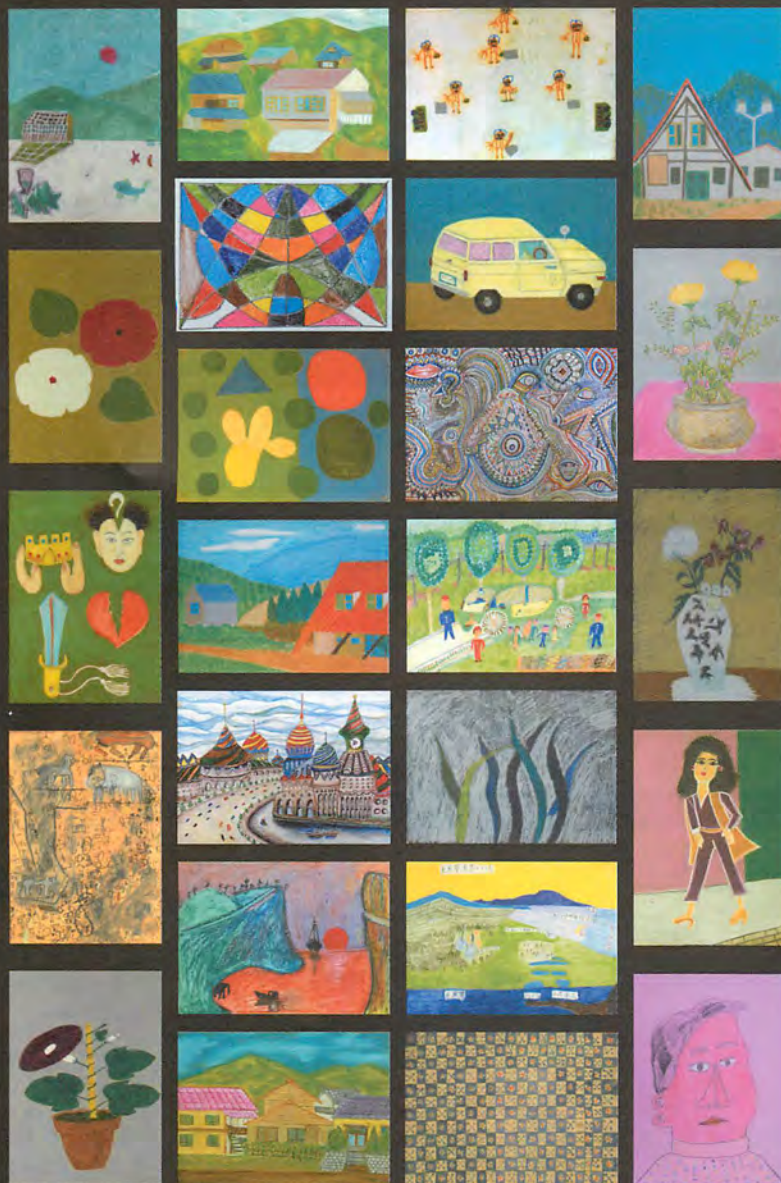


●いわき市の仮設住宅

第15回 アートセラピー美術館祭・特別講演 “Art for mental health promotion”

「アートで進めるメンタルヘルスプロモーション」

講師 Dr. Eugen Koh オイゲン・コウ 先生(オーストラリア・ダックスセンター)



講師プロフィール

オイゲン・コウ先生は、はじめはメルボルン大学の精神科医局からの出向で「精神医学における芸術療法」についての講師として、1999年にカニンガムダックスコレクションに関わるようになられました。そして2002年からは、エリック・カニンガム・ダックス先生が退職後、コウ先生がディレクターとして、就任され現在に至ります。

先生は、精神分析的心理療法を行う精神科の開業医であり、聖ビンセント病院でも非常勤で勤務されています。

聖ビンセント病院では、現代の精神保健サービスにおける創造性や芸術のあり方を模索する「メンタルヘルス・ワーキング・グループ（精神保健の現場）におけるアートの会」の会長を務められています。

先生はまた、過去25年間にわたり自身の芸術活動（主に絵画）も続けておられます。

日時 平成24年3月13日(火) 13:00~15:00

場所 友朋会嬉野温泉病院 新病棟コミュニティホール

ご挨拶 竹島 正 先生(国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所)

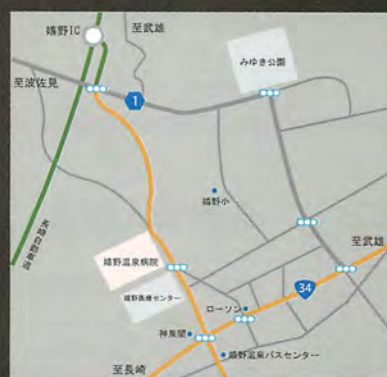
通訳 アームストロングゆかり氏

* 事前のご予約が必要です。下記のお問い合わせ先までご連絡下さい。

お問い合わせ 医療法人財団 友朋会 嬉野温泉病院

〒843-0301 佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿乙1919

Tel 0954-43-0157 Fax 0954-43-3440 E-mail aikawa@yuhokai.com



当院へのアクセスマップ

「ホームページリニューアル」

ホームページ

<http://www.yuhokai.com/>

携帯サイト用



医療法人財団 友朋会
嬉野温泉病院

● サイトマップ ● 交通アクセス ● 文字サイズ (標準) 大 ● 背景色 (標準) 青 黄 黒

お電話はこちら 受付時間
☎ 0954-43-0157 (8:30~17:00)

日本医療機能評価機構認定施設 Ver.6.0

- ホーム
- 友朋会について
- 受診のご案内
- 入院のご案内
- 施設のご案内
- 芸術療法
- 部門紹介
- 採用情報

ひたむきに、道 きわめ続けて
「こころ」と「からだ」の地域医療

初めての方

外来のご案内

入院のご案内

診療科の紹介及び診療担当医師一覧表

*診療時間 ◎月曜～金曜

◎午前の部/8:30~12:30(第1土曜 8:30~12:30) ◎午後の部/13:30~17:00

※ただし、水曜、金曜の眼科外来は10:00より開始

*休診日/第2・3・4・5土曜、日曜、祭日、年末2日、年始3日間

*予約診療/待ち時間短縮のため、予約診療とさせていただきます。ただし、新患、急患の場合は随時受け付けます。

日曜診療は精神科第2、第4日曜の午前中に予約診療を行っています。 平成24年3月1日現在

診療科目		月	火	水	木	金	
精神科	(新患)	精神科一般	1 菅高	三根	谷口	富松	奥
			2 谷口/藤巻	吉本	菅高	奥	富松/藤巻
	ものわすれ	1 吉本	松尾	田中	松尾	吉本	
		2 中山	中山	谷口	田中	松尾	
(再来)		富松	田中	中山	吉本	三根	
		松尾	谷口	奥	中山	菅高	
内科		榎	竹下	岡本	林原/榎	跡上	
泌尿器科		倉富	江原	倉富	江原	倉富	
眼科		崎戸(13時~)		崎戸(10時~)		崎戸(10時~)	

*眼科の診療時間 ◎月曜日 午後のみ13:00~17:00 ◎水・金曜日 午前10:00~12:30 午後13:30~17:00

友朋会嬉野温泉病院
歯科診療所は平成24
年2月10日をもちま
して閉院させて頂くこ
ととなりました。長年
にわたり賜りました皆
様のご芳情に謹んで
御礼申し上げますと
ともに突然の閉院でご
迷惑をおかけします
事を深くお詫び申し
上げます。何卒ご理解
を賜りますようお願い
申し上げます。



医療法人財団 友朋会

〒843-0394
佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿乙1919
電話:0954-43-0157
FAX:0954-43-3440
E-mail:info@yuhokai.com
URL:http://www.yuhokai.com/

- 嬉野温泉病院 0954-43-0157
 - 精神科デイケア・ナイトケアセンター 0954-43-0194
 - 老人デイケアセンター 0954-43-0233
 - 介護老人保健施設 朋寿苑 0954-42-2900
 - 友朋会介護サービスセンター 0954-20-2531
 - グループホーム 千寿荘 0954-43-0157
 - 就労支援センター「希望」 0954-43-0249
 - 地域連携室 0954-43-0255
 - 小規模多機能ホーム「孝心の里」 0954-43-7550
 - ものわすれメンタルクリニック 092-534-5151
- 〒815-0082 福岡市南区大橋2-19-20ピュアドームエレガント平尾3-4F